

---

# 2年から2年

カツオ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

2年から2年

### 【Nコード】

N0863A

### 【作者名】

カツオ

### 【あらすじ】

これはオレの自伝です。小学2年生から中学2年生までの自伝です

## 幼稚園から小学1年生

どうも。

この小説はオレの小学2年から中学2年までの出来事を語る物語です。

では、オレが語ることができない幼稚園から小学1年生までの話をしよう。

幼稚園の時はなんかしらんがかわいかったらしく、なんかもててたらしい。

それが原因か、オレがバカなせいなのか、先生はオレのことをおもいつきり嫌ってました。

なんか人がいないところで、

「死ね」

と言われました。ハハハ。

小学1年生の時はさすがに困りました。

ある日、学校の休み時間に校庭でフラフープで遊んでいたら隣の須長がフラフープが木に引っかかった。

オレが

「あーあ」

とか言ってたら須長が

「おまえのせいにしてやるよ」

ってなんかしょうがない感じでいつてるんですよ。うざくないすか。

休み時間が終わったらすぐフラフープの話です。

そしたら須長がオレのせいだって言いました。

オレは反論して立ち上がったら発見者の多数決。

須長がやっているのを見た人はいない。

次に先生がオレを聞いたら見た人全員あげるんですよ！いや、君、

見たよね。

オレは泣きながら

「あいつらも須長がやっているのを見た。オレはみてただけだ」

でも信じてもらえなくて、泣きながらクラスに謝りました。

あれから、いじめが始まりました。

でも、2ヶ月後、須長が泣きながら自分がやりました。

と言いました。みんなも先生も謝りました。

そんな波瀾万丈な人生を過ごしまくったカツオの自伝始まります。

なんか人がいないところで、

「死ね」

と言われました。ハハハ。

小学1年生の時はさすがに困りました。

ある日、学校の休み時間に校庭でフラフープで遊んでいたら隣の須長がフラフープが木に引っかかった。

オレが

「あーあ」

とか言ったら須長が

「おまえのせいにしてやるよ」

ってなんかしょうがない感じでいつてるんですよ。うざくない  
すか。

休み時間が終わったらすぐフラフープの話です。

そしたら須長がオレのせいだって言いました。

オレは反論して立ち上がったたら発見者の多数決。

須長がやっているのを見た人はいない。

次に先生がオレを聞いたら見た人全員あげるんですよ！いや、君、  
見たよね。

オレは泣きながら

「あいつらも須長がやっているのを見た。オレはみてただけだ」

でも信じてもらえなくて、泣きながらクラスに謝りました。

あれから、いじめが始まりました。

でも、2ヶ月後、須長が泣きながら自分がやりました。

と言いました。みんなも先生も謝りました。

そんな波瀾万丈な人生を過ごしまくったカツオの自伝始まりま  
す。

## アトリエ

オレは小学一年からアトリエに通ってて絵を上達するために頑張ってたんですよ。

まあこのアトリエって前に公園はあるし、近くに駄菓子屋があるし、土地的にいい場所だったと思う。

最初は火曜日に行ってたんだけど、女だらけでつまんなかった。火曜日に来たとき、見知らぬやつがいるなと思ったら、クラスをやつたので話しかけたんです。

「おう、おまえも行ってたのか」

友達と言った。

「けっこうまえから来てたぜ。幼稚園から来てたな」

「へえ」

「おまえも木曜日に来いよ」

「行けるのか」

「おう、オレも行った」

「じゃあ、行くか」

というわけでオレも木曜日に来ることになった。オレが木曜日に来てからは毎週が楽しかった。話したり、ふざけたりして楽しかった。

休み時間が特に楽しかった。

公園でばかばっかしてた。

小3になった。オレと友達はクラスが別れてしまった。

友達のクラスの担任は見るからに話が短そうだったが、オレの担任はすごく話が長い。校長より長い。

おまけに意味なく時間にルーズ。

あつ、アトリエの開始時間は3時30分です。

これを言わなきゃ後から意味がわかんないから。

学校でおなじみの帰りの会を3時に始めたし、おまけにこんな話をしやがった。

「私ね、昨日の夢で大きなたこに襲われる夢見たんですよ」

いや、知らんよ。

あんたの昨日の夢なんか知らんよ。

いいよ。帰りの会で昨日の夢の話なんて、なんの得になるんだよ。まったく。

おい！早くしろ！

「足で叩かれそうになったところを、赤ちゃんに助けてもらったのよ」

いいつて！赤ちゃんなんかいいつて！だから！早く終わらせろ

！おい、隣のクラスなんかもうさようならって言ってたぞ！

「メロンパン初めて買ったんだけど、あれ旨いよね」

知らん！終わらせろ！オレはあと10分でアトリエなんだ！

「頑張つて！あと10分で終わるから」

いや、間に合いませんからー残念！

ああ！3時30分！

「それより、大切な話があるんです」

いやたこの前に言えよ！ああ！

オレはいつも走ってかえっている。

オレは母ちゃんが免許持っていないから迎えにいけないんだ。ああ。

雨の日なんか最悪なんだ。たまにこける。

そして、オレはいつも遅刻している。

後一つは絵の具のことなんだけど、絵の具ね、すぐなくなるの。

前なんかね、赤と青しかないの。

使える色は赤と青と紫と赤紫と青紫とグロい色しか出来ない。

その時の課題は

「自然」

。緑なきや出来ないし。まじ困る。

でもマンガが借りれるんです。

なぜかサザエさんのレパートリーが多いんですよ。

まあ、いろいろあってオレはアトリエをやめた。

友達に超シヨックな顔をした。

オレがやめても、あの先生は話は長かったけどね。



## 人の話聞く力

オレは小1の時はものすごくバカでね、もう土下座寸前までバカなんだよ。

だから先生の話なんか聞くはずもなく、図工なんかおもいつきり忘れたからね。

通信簿もね、

「頼むから話だけは聞いてください」  
と書いてありました。

それに親の話も聞いてなくて親の会話なんか

「○○（本名は知られたくないので）！今日のテストどうだったの」

「えっ！」

「テスト！」

「ごめん！わからん」

「……………」

ただ単に聴覚が悪いだけなのかな。よくわからないけど、ハハハ。

給食の時も早く食ったり気づいて食ったり、いろいろあるんですよ。

でも一番気まずいのは友達と喋ってる時。

なんか友達のはなした後笑ってるんだけど自分は何言ってるのか分からなくて、すごい困る。てか気まずい。

あとオレ忘れっぽいんだよな。

前友達の携帯番号を教えて貰ってそのままアドレス帳に登録し

なくって何回も電話が来たんだけど誰か分かんなくて思わず着信拒否してたらまだ何回も来て、頭に来てオレはCメールで

「おまえ誰だ」

って送ったら返事が

「死ね」

って来てその後変なサイトの勧誘メールが来て、アクセスしてしまい自動登録されました。

その後ああ！あいつだあ！とか思いました。

まあいろいろありますね。

1番最悪だったのが、小2だった時、なんかあじさいを育てろとか言われて育てたら、なんかうざい葉っぱが出てきて先生が大きいのを残して取れって言ったんだけど、俺、小さいの残したの。

もちろん聞いてないから。

その後、オレは先生のビンタ後、ベランダ行きになりました。

オレの小学校は廊下じゃなくてベランダがあるの。

なんか話を聞かないからバカが流した噂を信じてずる休みをしついるとかなんたら。

あんた、話を聞かないと関係ないでしょ。

てかそんな噂されてる本人の話もきけよ。なんだよあいつ。

んでオレまじボロ泣きで、もう嗚咽で何にも聞こえなくて、何回も叩かれて何力所か瘡ができました。

脳裏に残ります。

そのときから人の話はちゃんと聞こうと思うけど難しいよね。

やっぱり。てかあの先生怖い。

## S（前書き）

誰から分かりませんが、この小説を楽しく読んでくれる人がいてとてもうれしかったです。ありがとうございます。続きが読みたいと書いてありましたので更新しました。

S

幼稚園からのダチでS　って言う奴がいるんだけど、そいつが笑える。

なんか知らんけど顔、イケメンでめっちゃもててた。  
なんかラブレターを見せてもらったら、

「もうかつこよくてどうにかしちやいそうです」  
とか書いてありました。しかも告白を断る理由が  
「俺には、サッカーがある。だからごめん」

いや、やってないでしょ。

しかも、悪です。S。

学校の授業中にガム噛んでました。

キセルもやってます。はい。45回ばれてます。

彼、校則を破るのが大好きです。

そのせいで3時間ぐらい授業が遅れました。

オレもけっこうグルを組んでたので、給食を食う時間まで  
も叱られていました。

その中でも特に笑えたのがオトリ万引き。  
まず、けっこう万引きの被害が多い店に行く。  
万引きGメンがいるか確認する。

万引きGメンの前にある商品の前で挙動不審にする。  
商品を袋の中に入れる。

Gメンがついてくるのを確認。  
レジの前を通る。

商品を出す。Gメンがつかり。それをみるのが笑えました。だせえ。

52回事務室行きました。

S、泣いてました。自分がオトリをしてたのに。

それに心を打たれた万引きGメン。俺たちを返しました。

でもその中でも一番怖かった事があります。

ある日コンビニで買ってきた物をコンビニ近くの公園で食おうとしたら、不良がたくさんいました。

それをSはなんかの祭りの集まりだと思ってそのまま食ってました。オレもそうです。

それにしても祭りの団体が不良座りをしてるなんて思ってペットボトルを投げたら当たって二人で笑ってたらなんか怒声が出てきました。

Sはその怒声と共鳴しながら笑ってたらこっちに来ました。

不良、すげー速い。俺たちは怖くなって自転車に乗りました。

「あれ、不良なのかよ！！すげービビった！！」

Sが言ったのでオレも共感してうなずいてたら、とんでもなくうるさい騒音が聞こえました。

オレたちが後ろを向いたら、変な形のハーレーを乗り回しながらオレたちを追いかけました。

オレたちはまじめに泣きながら自転車をこいでハーレーから逃げました。

翌日、普通に自転車に乗ってたら簡単にチェーンが外れてました。

それだけこいでたのですね。うん。

あれからオレとSはハーレーを見る度にビビったのは言うまでもない。

## my brother

小3ほどからオレは姉ちゃんにいじめられました。原因はデブだからです。

オレは嘆きました。

姉ちゃんもデブだからなんか自分にむかつてオレをデブにしていじめてるんです。むかつきませんか？

小4の時、姉ちゃんが世話をちゃんとするからと言ってハムスターを買ってきました。

その後？もちろん……………オレが世話をしました。

「姉ちゃん！！たまにはハムスターの世話をしろよ！！」

オレは我慢出来なくなつて怒鳴ったら、姉ちゃんはうざったそうな顔をして、

「だってあんた、ハムスター以下の存在じゃん」

そう言われて5回ぐらい蹴られました。

あれからオレはずっとハムスターの世話をしました。

しかもオレがいなきゃ死ぬのに、ハムスター、オレを噛みます。

もう分かつてるんですね。はあ。

オレには姉ちゃんのほかに弟がいますが、姉ちゃん、弟はめっちゃめっちゃ可愛がります。デブじゃないから。

前、とてつもなく泣きそうな話がありました。

姉ちゃんが寝坊して友達が怒って縁を切ったという事になって、起こせとたのまれたのは弟なのに一方的にオレに黙ってオレが起こすことになつたそうです。

とりあえずオレのせいではないけどオレをボコそうとした姉ちゃんがそれを聞いて、なぜかオレにキレた。

オレをボコすために用意した自家製鉄パイプでオレを50発ぐらい殴ったあと、家にある漬け物石でさんざん殴り、あげくのはて

にポットにある全ての熱湯をオレにかけました。

オレが痛くて熱くてもがいてたら、姉ちゃんが蹴りながらオレを玄関まで運んでオレを追い出した。

その後泣きながら友達の家に行って、友達の母ちゃんが警察に電話しようとしたがオレは拒んだ。

やっと痛みも収まって帰ったら、遅いと叩かれたあげく、夕飯をオレの目の前でおいしそうに姉ちゃんが食いながら、

「さすがデブ、やっぱり体が太い」

とか言っていました。

オレはめちゃくちゃキレた。

姉ちゃんの自家製鉄パイプを持ち出して部屋中の物を全て壊した。お姉ちゃんに3発ぐらい叩いた。

てかコメディなのに、こんな話してゴメンね。

てかそんな姉ちゃんいたら誰だってこんな事するから。

次は弟の話をしようか。

はつきり言います。オレの弟、ホモになりかけてます。

はい読んだ人、引いてます。うん、オレも引くから。

弟がホモになりかけた理由、それはコナンです。

コナンってさ、なんか倉木麻衣が歌うんですよね。

エンディング。オープニングは愛内里菜。

ところでさコナン。

エンディングのアニメ見てる限り、蘭とコナンが恋してるみたい。

新一は何処行っただの。

話ずれました。

問題は倉木麻衣の歌の最後のフレーズ。

「抱きしめて」

「抱きしめてあげるよ」

と弟が言って、いきなり目の前にいたオレを抱きしめた。

ひょんなことから弟が命名した抱きしめ少年誕生。

説明しよう。

抱きしめ少年とはそこらへんに歩いている人をただ抱きしめて、窒息死させる能力を持つ、人間形態に変形可能のゲイ妖怪なのだ。

実際の抱きしめ少年は腕が8本あるらしいと弟が言っていました。

しかも抱きしめられるのオレのみ。抱きしめ少年は勇気がないのです。

ある日、エスカレーターしました。

抱きしめ少年が進化して腹舐め少年誕生！！

説明しよう。

腹舐め少年は抱きしめ少年の能力＋腹を舐めて人を嫌な気分させる＋腹を吸って全ての栄養分を吸い取る＋人間形態に変形可能のとてつもない妖怪なのだ。

被害者、オレ一人。

腹舐め少年は進化しても勇気が無いとです。

弟はどんどん進化します。

オレが本を読んできると、

「本じゃなくて僕の顔を見て！！」

と顔で割り込み。

挙げ句の果てに腹舐め株式会社、デブの街、完成。

説明しよう。

腹舐め株式会社は仕事、腹を舐めて人を殺す事を目的としている株式会社です。

絶対誰も株を買わないと思います。犯罪だし。

社長は被害者なのにオレです。社員は弟のみ。募集はありません。

腹舐め株式会社、倒産寸前です。

説明しよう。

デブの街とは、腹舐め少年から逃れてるデブの人のために作られた街です。

中は毎日風船が飛んで、ほとんどが食事をするところ。デブは無



料。

警備員もデブです。

そんなデブの街は腹舐め少年の最高の餌食らしくて毎日デブの格好して来ます。

おなか舐め舐め株式会社は、腹舐め少年も入っていて、腹を舐めたら金がもらえます。

どうですか？オレの兄弟変でしょ？あと兄ちゃんは保父さんを  
目指して勉強してます。

絶対後書き見てね

m y b r o t h e r (後書き)

キモがらないでね。

## もぐら

ドラクエの天空の花嫁が発売された時、オレはケータイで予約してたら予約件数がいっぱいですと表示されました。

オレ、それが出てきたとき真面目に慌ててもう買えないって思ったら、親戚が買ってきました。

それと同じタイミングで予約も成功して来週には届きますってメール来た。2個もいりません。

結局、もらった直後未開封で売りました。

230円が無駄になりました。

さっそくソフトをセットしてスタート。名前を自分の本名にし、プレイ。

天空の花嫁って一番特徴があるよね。最初が主人公が生まれるのがいいね。

しかもめちゃくちや強い主人公の父ちゃんが名前がトンズラがおすすめとか言っていました。

おい！！トンズラって、トンズラって！？妙だけど一番アホそうな名前だったな。うん。

その後船に乗って船長に話して、父ちゃんに話して降りたら、なんか父ちゃん、知らないおっちゃんと話してるやんけ。

まあとりあえず主人公になりきったオレはフィールドに行ったら父ちゃんいるじゃん！！

父ちゃん、簡単な世間話で終わるんかよ。

てか父ちゃん、最初からレベル22！？強いやんけ。

スライムがすぐ死ぬからすげー育つなって思ったら、あいつら自動で歩いてました。

しかも速い。結局レベル2までしか育ちませんでした。

その後、一晩寝て起きたら父ちゃん、走って洞窟に行っちゃいました。集団自殺しに行ったのかな？

まあとりあえず行かなきゃ何も始まんないからとりあえず行こうとしたけどだるいから本を一冊読んでまた寝ました。

んで起きたらまた父ちゃんがいたのにキレて、売りました。

その後発売したのが空と大地と呪われし姫君。行列で並びました。

最初からヤンガスが仲間になってるから戦いやすい。やっぱり自分で歩くのがいいですね。

でも主人公が喋らないのはやっぱり同じですね。

ヤンガス、強いね。同じレベルなのにあんなに斧が似合ってた強い奴初めてですね。

最初からいきなりスライムが出てきました。

でも、剣をえいって振ったらすぐ死にました。ヤンガスはおもいきり振りしました。

その後、小さい変な町に着いたらトロデとかいう王らしき奴が怪物扱いされたあげく石を投げられ追い出されました。

緊迫した場面なのに笑ったのはオレだけでしょうか。

やべーよ！！追い出されました。どうしましょう。はい。

変な娘登場。なんかごちゃごちゃあって水晶取りに行かされました。

なんか取んなきゃ親父さんがやべーそうです。

あの、町を追い出されたオレらもやべーんです。自分で取りに行ってください。

その後ごちゃごちゃあってゼシカとか言う女とキザなクールとか言う男を仲間にしちゃいました。

その後ごちゃごちゃあってトロデーン城に着きました。

そのトロデーン城がキモいキモい。いばらが巻き付いてます。

「速く図書館に行け」

とか言われちゃいました。

おい怪物。行けとかじゃなくて場所を教えてくださいなきゃオレらも歩けません。

でもなんとか到着。

訳分からん本を読んでたらキモい扉が登場。ハープを取りに行かされました。

水晶取りに行ったりハープ取りに行ったり大変だな。

主人公も。でも何も喋らないのがさすが主人公。

そしてごちゃごちゃあつてハープはでけーもぐらと戦わなきゃもらえないことになりました。

そのでけーもぐら歌を歌います。それがどうしたと思って口笛吹いてたら

「エイトは歌にしぶれて麻痺になった」

はあ！？口笛が一気に高くなりました。

しかもでけーもぐら、パンチが強いです。でも何とか勝ちました。

ごちゃごちゃあつてついにドルマゲスへ。

訳分からん攻撃ばつかしてくる。めちゃくちゃ強いし。でもオレは、

「負けてたまるか　　！！」

って叫んでたら親にうるさいって言われたけどギガスラッシュで倒しました。

エンドロールをしみじみ聞いて、セーブして切つてまた付けたら、あれ？と思いました。

主人公のレベルが8、ヤングスが93、ゼシカが13、ククルが5でした。

オレはもう頭の中ごちゃごちゃして、スクエア・エニックスに電話したら、ソフト、ゲーム機器内の異物の侵入による故障。でした。

オレは電話しながら泣いてました。

人々はオレをゲーム悪魔と言われて2度とゲーセンに誘われることはありませんでした。

ダメじゃん！！

はい、前書きで書いた通り怖い話をします。

オレ、自分で霊能力はないと思うんだけど、霊体験が多いんだ。たとえば5歳の時に、おもいつきり肘を強打して骨折して入院したとき、入院してた病院はでかいけど古かったんです。

ある日、眠れなくて散歩していたら、同じぐらいの女の子がこっちに歩いてきました。

オレは新たな恋を希望して歩いていたら、その女の子、顔はかわいいいんだけど、左腕は無いし、やや透けてるんです。

オレは何もしなきゃ追われなと思うてすれ違ったら、  
「いいなあ、私、あなたの左腕ほしいなあ」

オレはえっ？と思ったけど逃げました。

小3の時に学校に忘れ物をして夜中に学校に潜入、職員室にあるテストの答案をパクろうかなと思って、職員室に潜入したら、白い人がいっぱいいました。

またまた小3の時に授業中外を見たら、窓に手が張り付いてました。

オレ、何が何だかわかんなくてずっと見てたら、その手、窓をはいつてました。

それでもずっと見てたら顔が見えました。

目が半分ぐちゃぐちゃになってて、頭からはだらだら血を流してました。

「んぎゃあああああああ！！」

音楽で子守歌を聞いてた時に叫んだんで注目率はおもいつきりあがりました。

小4の時は何もなかったな。うん。

小5の時はオレはめっちゃ悪で夜遊びしていた時に、みました。その友達もみました。

警察官の幽霊です。

オレらを見つけたとたん、消えました。その後、泣きながら逃げました。

次は中2の時の話です。

中2では2回体験しました。

1回目、オレの友達にKと言う奴がいました。

そのKは、とにかく道に詳しい昆虫博士という微妙な特徴があります。

ちなみにKに教えてもらったのですが、スズメバチは人間の髪が敵の蜘蛛に見えるそうです。

あと、止まっても叩いたり、払ったりしないで下さい。

とりあえず何もしなければ刺しません。

あと、スズメバチに刺されたら3時間で死にます。タメになりましたか？

話を戻します。

そのKの家に遊びに行った時、Kがいきなり自転車で熊谷に行こうと言われました。

オレは秩父出身で、その秩父から熊谷まで自転車で行くんです。すごい長い距離です。しかも高速道路は平気なのでしょう？

とりあえず行きました。

裏道、裏道をずっと通ってました。

そして、なんか知らんけど山を登りました。しかもその山がキツいキツい。

自転車もキツくてチェーン外れました。

その後、怖そうな兄ちゃんに直してもらいました。

自転車も直って行ったらなんとか着きました。

二人でやったーとか言ってサテイとか寄りました。

その後、山を降りました。

降りてる最中に樹海と樹海が挟んだ道を通りました。日なたがなくていかにも怖そうです。

「K、ここ、怖そうだな」

と言つてたら、いきなりKが止まりました。

「どうした」

「あ、あれ」

Kが指を震えながら樹海を刺しました。

オレがそこを見ると、首を吊ってる女がいました。

「うわああああ!!」

俺とKは急いでチャリをこぎました。こいで、こいで、まじめにこぎました。

特にKは

「うわああああ」

と叫んで一生懸命こいでました。

ベン・ジョンソン並みの速さで、チャリが走ってました。てか、チャリならそのぐらいだと思うけど。

俺たちは後ろを見ずにこいでました。

よくあるじゃないですか。

追いかけて逃げきれて安心して後ろを向いたらめちゃくちや近くにいた、って感じの。

俺はとにかく霊はチャリがないし（当たり前）、追いつかないとおもっていた。

しばらく逃げてたらKが止まった。

俺は何かないって思いながらKと同じ所に止まった。

そこは神社だった。狐の像があつたから狐系の神社だと思う。

その坊さんが俺たちを止めたのだ。

「まあ中に入れ」

と坊さんが言つたので、俺たちは入った。

その神社の中はとても神秘的なオーラに包まれていた。

繊細にできてある飾りや掛け軸に心を奪われていた。

「座つてくだされ。おまえたちは見るからに中学生だな。茶でも飲んで話でも聞いてくれ」



坊さんはそういつて俺たちを座らせて、話をし始めた。

「はつきり言おう。あなた達は霊に追われていた」

ドンピシャです。ぴったんこカンカンです。

「その霊は恋愛関係で自殺した女の霊でな、女って言っても14だけどな」

はい！？タメですか！？昔はすごいものです。

その後も坊さんは長い話をして、訳わかんない棒で俺たちを叩いて帰しました。

コメディなのにこんな話ごめんね。

## 俺と同じ名字（前書き）

どもカツオです。遂に中学3年生になりました。受験生です。そろそろ修学旅行も近くなってきました。修学旅行は奈良と京都です。奈良の鹿に鹿せんべいをあげてきますので感想はまたのせます。最近、メルマガの宝くじにはまりました。無料で現金が手に入るんですよ。普通の宝くじ売場で2、300円も払って買うよりはマシだと思いますね。ダブル定額にも入ってますからパケ代も気にしないで楽しめます。みんなもどうですか。さて小説についてなんですが、中学生の特権の一つの部活についての話です。ではカツオでした。小説を楽しんでください。

## 俺と同じ名字

中学生になってからの一つの問題は部活ですね。そうだよね。  
俺も悩みました。どこに入ろうかなって。

俺の中学校、マジ面白いの。

科学部あるじゃないですか。

科学部っていえば変な薬品と変な薬品を組み合わせでなんかあつて  
へえって感じなんだけど、うちはね、パソコンやり放題。もうパソコン部だよな。完璧に。

俺の家、パソコン無いから科学部もいかなうって思ったけど、  
仮入部の時にとつともなく暗いイメージなので辞退しました。

さあ、残りはサッカー、野球、テニス、卓球です。

俺が小6だった時に流行してたのが“テニスの王子様”という  
アニメ番組で美少年のテニスプレイヤーがテニスをしてまだまだだ  
ねとか言うアニメ番組です。

最後はテニス部の部長と戦ってアメリカのウィンブルドンに行きま  
したけどね。

そのアニメ番組を見た男子諸君がテニスがこんなに面白い物な  
のかって感じでテニスが流行りはじめてね。

俺もその流行にのりてえって感じで買いました。

だからテニス部だなんて感じで入ったら、テニスラケットは一年間  
触らせない。

毎日タオルで素振り。

毎日校舎周り5周、歩いたらやり直し。

これがいきなり仮入部できまして、やってられっかって叫んでやめ  
ました。

テニスの仮入部中、卓球部もこった返しでした。

俺はすげーな、卓球って思ってたら、

「まさか、その中に卓球部に入る奴いねーよな？」

って一年生全員にらみました。もうせんぱいって感じですね。でっていう。

続いて、サッカー。見たらイケメン君ばっか。入ろうとした自分、

「一時間ぐらい鏡見とけ！！自意識野郎！！」

って説得しました。

でっていう。

野球も休日の練習が多そうなのでなんか嫌や。

でっていう。

残ったのは卓球。卓球にしましたあ！！

早速千円ぐらいのラケットを買って、練習。

最初はどこでも基本練習ですよ。一、二って言いながら素振りしました。

休日も休まずやりました。

が、全然強くななんいつすよ。なぜでしょうね。それでも必死に練習しました。

ある日、卓球部は体育館で女子と男子の範囲を仕切ってやってるんです。

そこに女子のボールが来て、俺の足下にぶつかりました。

俺はそれを拾ったら、俺の一つ上の先輩が取りに来たんです。

俺は渡そうとしたら、その人、俺の顔をみてポクっとしてるんです。その後、なんか知らんけど帰りました。

翌日、結構仲が良い先輩と会って話していたら、

「〇〇君の事が好きな人がいるんよ」

いきなり先輩は言ってきました。

「えっ、相手は誰ですか？」

俺は焦って問うと、

「〇〇」

と先輩は一番ショートな返答をしました。

俺は年上を惚れさせるなんてすげーなって思いながら、下校途

中に思い当たる事を考えてました。そして俺は思い当たりました。

卓球の玉を取った時だ。でも男の趣味が悪いなと思った。

翌日からすごい変わった。

女子の範囲から視線を感じる。ずっと。なんか気味悪くて練習に集中できなかった。

それがしばらく続いた後、女子の範囲から俺を呼ぶ声が聞こえる。

うるさい。練習に集中できない部員のみなさんの視線も怖い。俺はそれを逃れるため、倉庫でサボった。入った時、マンガを読んでる先輩がいたので、その人のマンガを読んでサボった。

つついそのマンガに夢中になって随分時間がたってしまい、戻ろうとしたら、後ろから聞きなれた声が。

「えっ、本当にここに○○君がいるの？」

「あつたり前さ。入ってるの見だし」

「うわあ、真面目にはなすの初めてだよお」

「大丈夫！！私は実は恋愛のキューピッドだから」

「マジ頼みますよお」

うわあ、引く！！引きすぎる！！何じゃこの対話は恋愛のキューピッドって何ですか！？

でもヤバくないか？！うん！！やばいですね。あんな奴らと対話なんかしたくない。

「先輩！！部長がキレます！！行きましょう」

と先輩の鞆にONE・PIECEのマンガを押し込んで、出ようとしたらもう目の前にいました。

すごいづらい。てか先輩いるし、何も話さないだろう。

先輩と鞆は跡形もなく消えてました。

せんぱああああい！！

うわあ、俺、生きてて初めて年上に裏切られちゃいました。はは、笑いも止まらないや。

「こんにちは」

とりあえず俺が言ったら、2人も返してきた。

「この子も○○って言うんだよ」

はい！！同じ名字ですね。フッフ、それがどうしたの？

「ちよつとやめてよぉ！！」

その俺と同じ名字の奴と出っ歯が特徴の二人はキャーキャー言っていました。俺はその場から逃げました。

地上に出たらまた俺を呼ぶ声、挙げ句の果てに

「もててるなあ」

と友達に言われました。

すげー最悪な気分になって頭を抱えてそのまま座り込みました。あつちからはどうしたのという声、看病しなと言われてあいつがやめてよおとか言ってはしゃぐ声。もう全て消えてしまえと感じました。

ははは、そんな時にはいざ出陣。噓泣きだ。

俺はとりあえず感動したドラマを思い出したら涙登場。

そのまま副部长を呼びました。副部长は俺に向かって、

「どうした、いじめられたなら気にするな。他の悩みも相談するよ」

うわぁ、俺、生まれて初めて俺と同じ学校にいる人が神に見えてきたよ。

とりあえず俺はいいました。

女子卓球部がうるさくて練習ができない。

なんか俺をからかう。すごく恥ずかしい。まるで拷問みたい。もう、部活をやめたい。

部活をやめたいと言ったら、副部长が地上から出てきて、俺が部活をやめそうだといって全員地下に降りてきました。はぁ、みんななんていい奴なんだろう。

副部长が部長に今俺が話した事全てを言ったら、部長が地上に出てきて女子に怒鳴りつけて女子の部長と副部长、問題の二人が来ました。

部長が女子の部長に今俺が話した事全てを言ったら、女子の部

長が俺の所に来た。

「練習が出来なかったの？」

「（泣いている）はい。すごく練習のじやまでした」

「迷惑？」

「はい」

すると、女子の部長と問題の二人が女子の顧問の先生に今までの状況を話して顧問の先生も登場しました。狭いです。

何を話したか忘れたけど顧問の先生がまとめてみんな安心して部活に戻りました。

その後、俺は職員室に行つて、問題の二人を土下座させて歸りました。

その後、俺は体育館の時は部室で友達と練習してました。

部活内には必ず一番強い人と一番弱い人がいる。

卓球部もそうだ。

俺は一年の時とはとにかくとにかく弱くてしょうがなかった  
ぐらいで完璧に部活内では一番弱かったですね。

卓球部は弱肉強食の世界。

弱い者は台では打てない。俺もいつも打てない状態でした。

おまけに強い人たちにいじめに合いました。

みんなが打つてる中、俺は筋トレをさせられ、ラケットを没収され、どんなに覚えのいい人でも覚えられないような教え方をされ、出来なかつたらやる気がないと言われ、ラケットで叩かれながら筋トレする毎日だった。

そんな時に限って顧問は卓球は未経験で何もできなく部活にも来ませんでした。

だから強い人たちも調子に乗ってやめるコールをしてきたり、もうラケットはいらないと言われ、折られそうになりました。

休日の部活の時、神様はなぜか強い人のグループと俺だけにさせました。

もちろんへボコール。

やめるコール。

帰ろうとしたらやる気ねえんかよと言われました。

訳わかんねえよ。

はあ！？やめろって言ってるんだから俺が帰ったら普通は喜ぶだろ。もし俺がめっちゃくちや強くなったらどうなるんだ！？俺はそう考え一生懸命練習しました。

そして、俺は部活で強い方へと導いていったのだった。今じゃ俺しか出来ないサーブがいくつも完成して、強い方の人たちは悔しがってました。

ついに一年生が入ってきました。

俺は調子に乗ってえらそうに教えてました。

強い人たちみたいな教え方で。

そしたら、俺より強くなりました。

中には超強い人もいます。俺のサーブも簡単にとられました。

俺はやっと自業自得の意味を知りました。



## 小説家になろう

俺がこういう風に小説を書こうと思ったのは、小学五年の時だ。小説を書こうと思う前は漫画家になろうと思っていたが、きもい奴も漫画家をめざしていたため、うわぁ、俺はあいつと同じ道を進もうとしたのかと思い、やめた。

それならば、小説だ。

小説家になろうと思った。

なぜなら漫画家よりも小説家の方が下積み時代を過ごさなくてもいいし、漫画のように余計な道具をそろえなくてもいいからだ。

さっそく、シャーペンと5ミリ方眼の升目ノートを用意して小説を作った。

最初に作った小説はこのサイトにも載せている地獄住宅だ。地獄住宅のストーリーは新しいマンションに引っ越してきた人や住人が悪霊の仕業によって殺される話だ。

もろ呪怨のパクリだけどまあいっかーとお気楽気分だ。

だってそれなりには怖くしているが、評価してくれないのが悩みだ。ははは。

ちなみにこの地獄住宅、シリーズ化してるのだ。

順番で示すと、新しきマンションの真実、地獄へと進化したクリスマスパティー、残虐な花子さん、ゾンビ屋敷への変化、地獄の壊滅です。

なんかもうとりあえず怖そうな名前にして完成度は0に近いのだ。はいチャランな性格なんだ俺って。

しかもすべての小説が完結していない。書いてもない小説もあつたりする。

でもそんな俺の小説の中で唯一完結した物がある。それは

「自殺前相談所」

。これは、不動産屋が夜になると自殺しようか悩んでいる人を相談

している（無料）。

どうして不動産屋なのかはとりあえずそう決めたから。特に引っかけは無い。

完成した日に俺の小説を楽しみにしていたおじさんに小説を見せたら、

「つまらん」

と言われて返された。俺はそのとき、しょぼいという言葉を知った。

あれから、俺は小説を書くのをやめた。

特にこれで金が欲しいなんて一度も思っていないし、別に俺には漫画家つてのもあるしね！。

なんて思っていたとき、最小年芥川賞受賞者が出てきた。

そのニュースを見たとき、なんですと！？と思った。

そして、負けられねえと思つてまた俺は原稿用紙を机の上に置いた。

だが、俺はとてつもない事に気づいた。

どこに小説を投稿すればいいのかと。

とりあえず出版社のホームページを見たが、どこにも投稿してくださいなんて書いてない。俺は焦った。

持ち込みも考えたが、東京だし、どこにあるのか分からなかった。

そんな時に見つけたのがこのサイトだ。

小説も投稿できるし、読者の声も分かる。

おまけに不定期で出版のコンクールや、読者数も分かる。

そんなサイトどこにあるんだい！！（きもい）そうだよ！！小説家になろうしかないじゃないか！！

そうして、俺は小説家になろうに小説を投稿した。

作者名はカツオ。直感で決めました（・・）

最初に書いたのはきつかけ。

ホームレスと少年の物語。

途中からなんでこんな小説書いたのだろう。と思つてやめた。でも

未だに投稿してる。

次に書いたのが友というシンプルな小説。

でも話は意味不。

全然つまらない。

小説評価でも、私には意味が分からないと言われてまあちょびしょんぼり。

次は地獄住宅。

次はこの小説だ。なんか一番読者数が多い小説です。ははは。続いてグッドフレンド。俺が感動を目的とする小説。でもキャラに個性がない。

あとの小説は中3に書いたから分からない。以上！！

## 小説家になろう（後書き）

ちなみにこの後に書いた小説は資格〱俊樹とハブ〱、生きてました、土産土、お魚くわえたドラ猫です。

## 野球の坊主のフォー！！

僕の友達に関 という友達があります。その関 のあだ名はセバスというあだ名です。

このあだ名は小4の時に関 がふざけながら

「俺の事セバスって呼んでくれ」

と言ったから呼んでやろうじゃねえかって事になって呼ぶ事になりました。

関 。超面白いです。すぐ面白い人に影響されます。今はレイザーラモン住谷に影響されてフォーとかたまに言ってます。あとオザースとか。

あと関 、女子に人気があります。面白いからです。話してて飽きません。

そんな関 が起こした事件を紹介したいと思います。

関 が中学一年の時、給食で余ったもの（ドレッシングなどの袋系）を入れてシャッフルしたものを作ってました。時にはハエの死体も入れました。

それを嗅ぐとなんかヤバくなります。

「コロナプスがアメリカを発見したのはそのときです！！」

数学の時間に俺が差されて、答えたのがこれで、休み時間に職員室まで引つ張られました。

ちなみにその臭いが説明できませんでした。

それぐらいやばいのです。これをみんなが嗅いだらどうなるのでしょうか。

学校で大掃除があった時、関 がじゃまだったあれをどかそうとしたそのとき、なぜか関 はキャップを外してはこんだため、落としてしまいこぼれちゃいました。

みんな大騒ぎ。一部は教室から逃げるくらいでした。そこであのときを音声だけで再現しようと思います。

「うわあ！！何してんだよセバス！！（クラスメート）」

「やべえ！！ははは！！どうしよう（関）」

「うわあ、俺嗅いだの二度目だよ！！（俺）」

「おい！！〇〇が倒れてるぞ（先生）」

「先生、俺どうしよう（関）」

「いいから拭けよ（俺）」

「見て、拭いたらキレイになった（関）」

「しらねえよ！！（クラス全員）」

とりあえず関 だけが掃除をして3人は保健室に行きました。

次の事件は関 は野球部のキャプテンで、必死に練習した時の事件です。

俺ががんばってるからジュースでもおごってやろうかと思って、ジュースを買って届けたのです。

「セバス、ジュース買って来たぞ！！」

「マジっすかサンキュー。これ終わったら飲むからさ」

そうして関 は素振りをしてた。その時、俺は異変を感じた。

バットを持つ所に巻いてあるテープिंगみたいな物があるじゃないですか。普通は白いのに、赤いのです。

「セバス、赤くなってるぞ」

「えっ」

そう言っ、バットから手を離れた時、ブシュー！！って感じで親指から血が吹き出ていました。俺と関 は困りました。

「とりあえず、救急車だ！！」

その後、関 は救急車に運ばれて病院に行った。

ついでに理由は日々の練習で出来た血豆めっちゃでかいがつぶれてしまったためだった。

続いての事件は、関 と俺で自転車通学で帰ってる時だ。

そういえば自転車通学には必要なヘルメット、あれはダサイです。無しにしてほしいです。

それで帰ってる時です。

俺たちが通ってる道路に、ビニールテープで囲った畑がある。

そこには長ネギ、キャベツ、白菜が収穫されている。

そんな畑がある道路を関と通ってたら、いきなりブレーキが効かないのか、ジグザグに通った後、畑にそのまま突っ込んで、ビニールテープを突き破り、一回転して頭から落ちた。

「セバス！！平気か！？（笑いをこらえている）」

すると、関は普通に頭を抜き、笑いながらヘルメットの土をはらってました。

「ははは、おもしれえ、○○ちゃんもやれば」

「いややんないよ」

すると、その畑の主のおっちゃんが登場してきた。

怒られると思った俺たちはそこでとてつもない体験することに

…。

「おまえら、釣りには興味あるか」

え  
！？畑はいいの！？キャベツがボロボロですよ

！！

「主を釣った時の気持ちはもう最高ですよね」

「そりやもう（焦り）」

関、おっちゃんの機嫌を損ねないために頑張ってるな。

そりや父ちゃんが釣りが好きだから分かるけど。

関の笑顔には2つの意味があります。

一つは、なんで畑を壊されたのに、笑顔で釣りの話をしているのか。

そして、もう一つは、さっさと消えてくれ、このくそじじいって感じの笑顔。

案の定、おっちゃんは笑顔で家に帰っていった。その後、俺と関は普通に家に帰った。

## 俺の誕生日（前書き）

俺の誕生日なんてアニメの声を有名人が担当するぐらいくだらない事だ



## 俺の誕生日

俺の周りの人々なんて、俺の誕生日はどっかの知らないパン屋のメロンパンが百万個売れたと同じぐらいのくだらない事件に等しいと俺は思う。

8月8日、この日は俺の誕生日である。

幼稚園から小学校低学年まではパーティーなんて開いちゃって親戚を呼んでほれ金やる、ほれ金やると千円札をどんどん受け取った記憶があるが、これもいい思い出と思えばいいだろう。

それから俺の誕生日を誰からも気づいてもらえなくなったのは、そんなに時間は経たなかった。

小学校高学年、そのころの俺は反抗期だったのだ。

親に対しても『だまれ』と言っていた自分に誰がハッピーバースデイと言うのだろうか。

そんな時、悲しい事件が発生した。

まさか、俺の誕生日にあんな事が起こってしまったとは。

中学2年の8月8日、その時の俺は金が無くて、毎年誕生日にもらえる祖母の金が嬉しかった。

俺はさっそくばあちゃんちへ。

ばあちゃんは一人居っておもしろいテレビのみのもんだがクオカードを配っているのを見ていた。

俺がいる事は知っていたが、何も気づいてくれない。俺の誕生日を…。

「あもう、おばあちゃん」

「何！！（怒り気味）」

「いや、なんでも」

何でキレルんねん！！俺はジュエスチャーで突っ込み家へ帰った。

家へ帰ると、異様に飲み過ぎている父と酒にメチャクチャ弱い母がテーブルに伏せていて、その横に酒を飲まされたのか『ミミズだ

ぞ〜』と言ってクネクネしてる弟。

ハムスターに足でも噛まれたのか片足を持って跳ねている姉。  
満足感タップリの顔をしているハムスター。

何なんだ、この一家。

息子の誕生日に家をこんな状態にしているし、弟はもろミミズより蛇に見えるし、姉の左足の親指が妙に赤いし、すごく訳わかんない状況だ。

「ウイ。今丑三つ時かあ？」

深夜つていえばいいのに、丑三つ時つて言葉を言う母が起きてきた。

「おうー！ー！！チャップリンー！！」

俺チャップリンじゃないよー。よく覚えてねー。

「お化け怖いよー」

訳分からん展開で急に泣き出した弟を見て母が大爆笑して父が寝言で『おらは空なんか飛べるんじょー』意味不明な日本語を吐き散らかして、姉は人形の胸ぐら掴んで人形にケン力を売っていた。

俺はその時、分かってしまった。

こいつら全員、飲んでいる。

酔っている。

飲んでない状態で人形にケン力を売っていたら、俺はタクシーを呼んで精神科に連れていくであろう。

「おい、ウォーリー」

違います。

「だから俺はちげえって」

「…ゲロツパー！！」

母は両手を上げて叫び、満足気な顔をした。俺ははあ？と言いたくてたまんなかった。

「おい、ウォーリー。実はよ、あんた家の子じゃないよ」

えー！ー！ー！？何言うの！？いきなり。

姉が『メロンパンチ』と弟を殴っているのを横目で見て俺のこと

をウォーリーと呼ぶ母の話を聞いてみることにした。

「実はよ、あんたはあたち（？）の腹の中から出てきたんだよ！！」  
はい、家の子決定！　なぜか母は涙ぐむ。

「あんたなんか産まなきゃよかったよ」

もし母親が酔っ払ってても母親からその言葉を聞くとどれだけシ  
ョックか分かるはずだ。

弟から『でてけでてけゲフフ』と笑ってる中、俺は家から出てい  
った。

その時の持ち物は、電池一個のケータイ。

金（2000円ぐらい）、ばあちゃんの家でもらった和菓子二個。

まああとはチャリもあるし、好きなところへ行くか。

ピーと、聞きなれた音。

もしや、ポケットからケータイを取り出すと、充電してくださいと  
いう表示が…

俺は崩れた。

もう連絡手段は無しかと、まあいつもケータイは携帯してないしい  
つもの事だ。でも充電器持ってくればよかった。

俺はチャリを発進させ、近くの公園へと向かった。

その公園、遊園地とか調子乗ってるけど、ブランコ（三台もある）  
とすべり台とグルグル回るやつとジャングルジムしかない遊園地が  
どこにある？という話になる。

俺はとりあえずグルグル回るやつの後ろに隠れた。思いっきりバ  
レるけどね。

しばらくしていると、日も暮れていき、カラスも鳴きまくっている。  
ここで寝るかと思って寝転がった。

頭に当たる感触は気持ち悪いが、冷たくて気持ちいい。夏にはち  
ようどいいと俺は思う。

すると、誰かの叫び声がかすかに聞こえてくる。なんなんだ？

「~~~~~!!!!!!」

俺の名前だ。あれはまさか…。

「~~~~!!」

父だ。飲酒運転じゃないのか？

弟がまだ酔ってるのか『ヘベロン、ヘベロン』と言いながら窓に体を出している。来るなよ。弟。

俺は父に名前を叫ばれるのも弟に『ヘベロンヘベロン』って言われても困るから俺はいそいそと公園を出て、『俺はここだ!!』と叫んだ。

最終的に家族全員で土下座をし、翌日、2万を封筒に入れて置いてあった。

後でわかった事だが、弟はチューハイを5缶ぐらい飲んだらしい。なぜ家族全員飲んだのかわからないまま今に至るのだった。

## 中学3年生から

いよいよ2年から2年も終わりへと近づいてきた。皆さん、俺の人生どうでしたか？

それでは中学3年生からの俺について語ろうと思います。

今の俺はバンドを組んでいます。

そのボーカルは右のもみあげがありません。

何の目的でもみあげを剃ったのか未だに不明です。

しかもバンドの第一曲目はおもいきりパクってます。しょぼいです。

あと悪い方向の奴とつるんで、スーパーと100均のブラックリストに載ってしまいました。

あとケータイいじってたら、その前に担任がいて、ケータイを没収されました。高校行けるんでしょうか？

夏休みはなんか知らんけど、セバスのランニングにサイクリングで付き合ってます。

結構いい汗かいてます。痩せますね。うん。

あと

「大好き五つ子」

の五人が小学生からいきなり高校生になったのにすごい反対してしまい、セバスと討論してます。

「んだよ、なんで高校生なんだよ」

「落ち着けよ」

「中学生でもそれなりのドラマは出きるってーの。そうだろセバス」

「だまれ、フー」

のような討論をしまくってます。

それに

「大好き五つ子」

のみほとんりのかの変化がだいぶすれ違っちゃってます。

なんか知らんけどマシだったみほがあんな顔になるとは思わなかったし、のりかはあんなに綺麗になるとは思わないのもセバスと討論してます。

「のりかの変化の経緯知りたいよな。なあセバス」

「だまれ、フー」

のような討論をしまくってます。

そんな俺ももう受験生。勉強シーズンへなってます。

だけでもバンドもやりたい。

ドラムをダンダンやりたいし、とすごい悩みまくってます。

三年になってからだんだんチャリが壊れかけてます。

まず最初のチャリ破壊事件。

ある朝、俺はいつものように自転車の力ギを持って自転車の方へと向かうと、タイヤがやけに空気が無いので入れました。そのときの効果音。

「シュー（タイヤに空気を入れる音）プピギイー（タイヤから空気が漏れる音）シュー、プヤーン、シュー、プヤーン……」

俺は目に涙をため、必死で歩き、必死で遅刻してきました。

その日は生徒朝会でもいっきりに注目されて恥ずかしい思い出っす。チャリ破壊事件簿その2。

ある帰り道、バンドメンバーと帰っていると、いきなりギターが『サンケツしよーぜ』と言って、俺に無理矢理乗らされました。

まず俺が立ちこぎをして、サドルに一人乗って、荷台に一人が乗りました。

すると、おもいつきり左によつて、ぐにやつとこけました。

俺がタイヤを見ると、くの字型に曲がついて、走れない状況になり、俺はためーらのせいだとキレ、帰りました。

翌日、そのまんまのチャリが家の前にありました。

ちなみに修理代は俺がすべて払いました。

チャリ破壊事件簿その3。

段差を乗り越えたらプシューって……。

以上。これで俺の自伝は終了です。次はギター小説を書こうと思います。ありがとうございます。

中学3年生から（後書き）

ほんとにありがとうございました。 m ( ( m



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0863a/>

---

2年から2年

2010年10月20日16時00分発行